

住み続けたいまちに 地域拠点施設整備へ

ID 001282

富田地区では、公共施設の再構築を軸としたまちづくりを進めています。5月に策定した「富田地区まちづくり基本構想」の中から、地域拠点施設となる新たな公共施設の整備についてお伝えします。

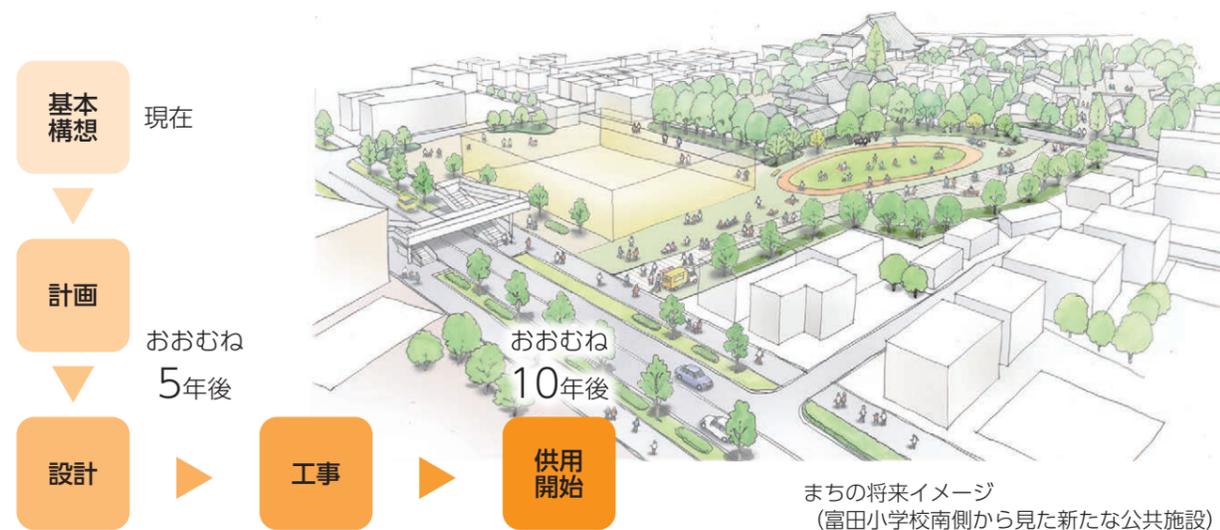
地域の人とまちの将来像を共有 3つの施設を複合した新たな施設に

富田地区の公共施設は、老朽化が進み、少子高齢化や人口構成の変化によるニーズの変化などの課題もありました。富田地区のまちづくりは、地域の人とまちの将来像を共有しながら、これらの課題に対応し、地区の特性を生かした持続可能なまちを目指して、取り組みを進めています。

新たな公共施設は、既存の3施設（富田ふれあい文化センター、富田青少年交流センター、富田老人福祉センター）を複合化し、これまでの機能を維持しながら、市民のニーズに対応し、長く使い続けられる地域拠点施設を目指します。また候補地が歴史的なまちなみに隣接していることから、地域の歴史や文化との調和が感じられるものとしていきます。そして、生涯にわたって住み続けたいと誇れる、多世代がつながり、ともに育むまちを実現していきます。

整備に向けた今後のスケジュール

施設の整備は、おおむね10年後の完成を目指して進めていく予定です。



問 アセットマネジメント推進室
TEL674-7688



新たな公共施設の候補地は、富田ふれあい文化センター、富田青少年交流センター、富寿栄住宅16・17号棟などの敷地に富寿栄南公園を加えた敷地を想定。土地活用の可能性を広げて検討します。

多世代みんなが集える 「まちのリビング」のような場に

同施設は、地域の皆さんが集う拠点となる施設を目指します。世代を問わず誰もが自然と集まり、思い思いに過ごせる居場所、まさに「まちのリビング」のような場所です（図1）。この施設像を実現するために、候補地の特性を生かした計画の策定を進めていきます。

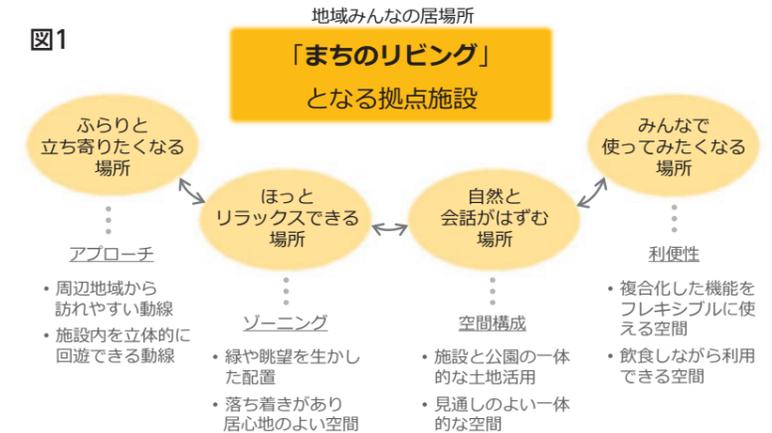


図2は、施設のイメージです。①～⑤のような場があり、各スペースに合う機能や用途の空間を想定しています。

